

◆事例紹介

金沢工業大学 RDA プロジェクトにおける産学連携教育

宮下智裕

金沢工業大学 建築デザイン学科 准教授

アパートを再デザインする「金沢工業大学の RDA プロジェクト」について紹介させていただきます。まず最初にプロジェクトの背景からお話したいと思います。

金沢工業大学の周辺には、およそ 4000～5000 軒のアパートがあります。その半数は学生のライフスタイルが変わったことや築年数を経たことで空室が目立ち、地域にとっても大きな問題となっております。

そういった状況を、教育の機会としてとらえ、学生が自分たちのアイデアをそこに盛り込んでアパートに新しい価値を生み出していこうという取り組みが RDA プロジェクトです。

プロジェクトに参加する学生は、ほかの学生に対して新しいライフスタイルを提供できる住宅のデザインを考え、アパートのオーナーに対しては完成後の運営も含めてプレゼンテーションを行います。

また、施工を行う建設業者の利点としては、住環境のトレンドを学生のニーズから知ることができますし、学生は建築の現場で施工業者から教育を受けることができます。さらに大学の教員が品質保証する形で改装を行うなど、参加するすべての人がウインウインを実現できる教育プロジェクトを目指しています。

プロジェクトには、大学院生と 4 年生を中心に、毎年 20～30 名の学生が参加しています。毎春、建物を選定する調査・リサーチから始め、どういうアイデアを提案するかというデザインを行います。夏から秋にかけて設計をし、工事に入ります。工期中は学生が現場の管理を行い、年末には完成。学生は自分が手がけた物件を他の学生に対して貸し出し、アパート運営までを行っていくというタイムスケジュールです。

施工前、学生たちは、自分たちが考えたアイデアをオーナーにプレゼンテーションします。コストの問題、工期の問題、オーナーの許可をもらうためにあらゆる手を使って説得していくわけで、そこには非常に大きなプレゼンテーション能力の改善が見られます。いかにして自分のアイデアを実現し、今までにないアパートを実現するか。そういったプロセスのなかでさまざまな能力が養われていくこととなります。

ここでいくつかの実例を紹介します。趣味を共有する人たちが集まるアパートのひとつです。植物が好きな学生の集まるアパートのアイデアで、植物を窓辺に飾れる整備や玄関に植物を置けるスペースが設けられています。

こちらは建築科の学生が日頃から模型をつくる作業をすることから、アトリエのように自由に、大きく使えるスペースを設けたいというアイデアから生まれたアパートです。トイレや浴室を最小限の空間に配することで自由なスペースを広くとり、キッチンのテーブルにカバーを付けることで作業台としても使える工夫がされています。

最後はコレクションの趣味を持つ学生向けのアパートです。ギャラリーのように自由にコレクションを飾れる壁が特徴です。

最後は「自由に使えるコミュニティスペースがほしい」という要望に対応し、玄関にコミュニティスペースを設けた物件です。

こういったアイデアが認められ、工事に入ると、学生はそれまで授業で習ったさまざまな知識を、ひとつの建物ができあがる過程で統合していくことができます。今までの復習はもちろん、知らなかったこともたくさん出てきますから、その場に必要とされる能力、知識を一生懸命勉強していくことが可能です。

また、工事を順調に進めるためのタイムマネジメントも必要になり、職人の方々とのコミュニケーション能力もより重要になってきます。最終的に学生は、入居者募集のミーティングを開き、自分がデザインしたアパートの魅力を伝えます。

さきほど紹介したコミュニティスペースを設けた物件では、住民と設計を担当した学生と一緒に家具をつくり、その家具を使ってバーベキューパーティ開くことで新たなコミュニティが生まれました。

プロジェクトでは、学生がどういう能力をそのプロジェクトで得たのかを確認するため、アンケート調査を行っています。その結果、コミュニケーション能力であったり、問題を発見・解決する能力などを得たという回答が多くみられました。アンケート結果からも学生自身が自らの成長を実感していることがお分かりいただけると思います。私のご報告は以上となります。ありがとうございました。